

# 出張授業 「よくわかる!がんの授業」も使って授業

神奈川県大磯町立国府小学校

講師 中川恵一 東京大学医学部附属病院准教授ほか

神奈川県大磯町立国府小学校で1月17日、がん教育の出張授業が実施された。日本対がん協会の神奈川県支部(かながわ健康財団がん対策推進本部)の主催で、6年生117人を対象に、中川恵一・東京大学医学部附属病院准教授が自ら監修して、日本対がん協会が制作したがん教育用のアニメ

動画「よくわかる!がんの授業」を使って、がん検診の大切さなどを講義した。その後、神奈川県立がんセンターの患者会「コスモス」の緒方真子・世話人代表が、「がんを体験して思うこと～今、あなたに伝えたいこと」と題して経験を話した。

「よくわかる!がんの授業」は、クイズ形式でがんについて学べる内容で、



アニメを見ながらがんの勉強

中学生・高校生向き保健体育の学校教育教材として「文部科学省選定」の評価を受けたものだが、この日の授業では中川准教授が小学生向けにやさしい説明を加えるなどして解説した。

緒方さんは、45歳のときに子宮頸がん、50歳のときに肝臓がんにかかったが、いずれも検診による早期発見で手術治療ができた。その頃に夫と長女、長男との家族のきずなによって

がん闘病を乗り越えてきた経験を、絵本のようなスライドを使って児童らにやさしく語りかけた。講演では1日に60本以上たばこを吸っていて、なかなか禁煙が続かなかった夫が、小学生だった長男から、禁煙を続けられたことを讃える手書きの表彰状をも

らったことがきっかけで、その後ずっと禁煙ができたというエピソードも紹介していた。

中川准教授と緒方さんの話を受けて児童らは、「がん予防のためにできることは何だろう」をテーマにグループに分かれて話し合い、「家族に検診を受けてもらう」「たばこの煙を吸わないようにする」などと、授業で学んだことを発表し合っていた。(本多昭彦)